

## はじめに

教育センター学びの丘が開所して2周年を迎えようとしています。今年度は、教職員研修や教育相談に加え、ITの有効活用を目指すCECの「先進IT活用教育シンポジウム」や、和歌山大学と県教育委員会の連携による「第2回教育フォーラム」等を開催し、幅広い分野から多くの人々が集いました。また、十数校が当センターの先進的な施設・設備を活用した授業を行い、子どもたちの元気ある驚きや喜びの声が館内に響き渡りました。紀南生涯学習フェスティバルでは、大勢の方々にプラネタリウムや電子顕微鏡等を体験していただくこともできました。このように、教育センター学びの丘は学校教育、社会教育における情報交流・発信拠点としてその足場を固めつつあります。

ところで、昨年はいじめ問題や必修科目の未履修問題など、学校教育に関する課題が続出した年でした。今、教育界は様々な問題を抱えています。それは、社会の問題とも深く関わる部分もありますが、課題解決の手立てはやはり教育にあり、教育こそが未来をひらく希望のともし火であることに変わりはありません。学校教育の最も重要な柱は「授業」であり、子どもたちが学ぶ楽しさとその必要性を認識できれば、多くの問題は解決されると思います。そうした意味からも、授業の構成力と展開力を自らに厳しく問いかけながら、授業力を常に磨いていく必要があります。

昨年12月に教育基本法が改正されました。教育は大きな節目を迎えようとしています。当センターは、教員の授業力向上、資質向上のための研修と研究を一層充実させ、県民の教育に対する期待に応えていく使命を担っています。また、同時に生涯学習の充実、家庭や地域との連携を図ることも大切であります。こうした認識のもと、所員一同は、それぞれが担う課題に対し主体的に取り組んでいます。

本誌では、この1年間の所員による様々な研究の中から、教員同士が学び合いながら授業研究を行った「教員の学び合いによる授業改善」、この2年間で8,200人を超える利用のあった「プラネタリウムの活用」、「地域子ども教室推進事業『スペース～遊U～』」等6編を掲載しています。これらの内容が、日々の教育実践の参考となり、本県教育の充実につながることを願うとともに、ご高覧の上皆様の忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

なお、本誌とは別に、当教育センターのWebページには、「Quarterly Times」及び「学びの丘だより (Manabi Hills)」も掲載していますので、これらも併せてご一読下されれば幸いです。

平成18年3月

和歌山県教育センター学びの丘  
所 長 吉 松 敏 隆